



血尿

健康診断で尿潜血(+)と言われたことはありませんか？
目で見て尿の色が赤かったことはありませんか？
今回は血尿についてみていきましょう。

肉眼では何の異常もないと思っても、健診や人間ドックなどで受けた尿検査で「尿潜血陽性」「血尿」などの結果が出る場合があります。

「尿潜血陽性＝血尿」と同じものだと思われる方もいるかもしれませんが、「尿潜血」は、試験紙法といって、尿にリトマス紙のような検査用のテープを一定時間ひたし、潜血反応が陽性に出たものを言います。

それに対し、「血尿」は、尿を一定時間遠心分離にかける「尿沈渣」を行い、底に沈んだ細胞成分を顕微鏡で見て、顕微鏡の視野である丸の中ひとつあたりに赤血球が5個以上出ている場合をいいます。これを「顕微鏡的血尿」といいます。顕微鏡的血尿に対し、肉眼で見てコーヒー色の尿や、血液の塊が見られるような真っ赤な尿は「肉眼的血尿」と言います。

また、尿が赤く見えても実際は尿が濃いだけだったり、ビリルビンなど他の色素で色がついているだけだったりする場合があります。

ただし、潜血が出たからといって病気にかかっているというわけではありません。潜血は病気以外にも痔・月経血の混入・一時的なストレス・激しい運動などによっても陽性となることがしばしばあります。尿潜血が陽性であっても、必ずしもすぐに対処が必要な病的なものとは限りません。

運動や発熱後などに生理的に尿中に血液がわずかに混じることもあります。

女性の場合、生理中のために尿の採取の際に血液が混じってしまうこともあります。

血尿の原因

1.尿をつくる腎臓で赤血球が混ざる

尿は、血液からろ過された水分や老廃物から成ります。通常、体に必要な赤血球はろ過されないのですが、何らかの理由でろ過機構が壊れると、赤血球が尿に混ざります。

ろ過機構が壊れる原因としては、糸球体腎炎があります。その他に腎がん・腎動静脈奇形・腎損傷などが考えられます。

2.尿の通り道(腎盂～尿管・膀胱など)で赤血球が混ざる

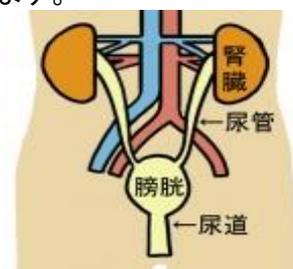
尿の通り道である腎盂や尿管・膀胱・前立腺といった器官の粘膜に出血があると、赤血球が尿に混ざります。この原因として考えられるのは、尿路結石や尿管がん・膀胱がん・膀胱炎などです。

3.腎臓の血流障害によって赤血球が混ざる

実は腎臓という臓器は固定されておらず、体・呼吸の動きにあわせて上下する性質を持っています。そのため長時間の立ち仕事やマラソンのような激しい上下運動をとまなう活動をすると腎臓も揺さぶられ、血流障害が起きやすくなります。そうすると赤血球が尿中に染み出し、血尿が出る場合があります。なお、マラソンは足の裏で血液が破壊されるという現象があり、それも血尿の理由のひとつとされています。

こういった腎臓の血流障害は必ずしも病気が原因ではなく、健康体の人にも起こりえます。

また、腎臓下垂の方にも起こりやすい傾向があります。



尿潜血の精密検査とは

再検査のために尿をもう一度提出していただきます。

尿定性

尿試験紙(ろ紙に試薬を染みこませたもの)に浸し、色の濃度で(+)や(-)を判定します。



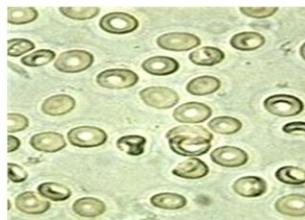
尿の中に血が混じっているかいないかを調べます。

尿沈査

尿が腎臓でつくられ尿路や膀胱を通過して排出される間には、剥がれ落ちたりして混入するものを調べること、腎臓や尿路系の病気の種類や部位を推測することができます。

採取した尿を5分間ほど遠心分離機にかけると、尿の液状成分と固形成分とが分離します。この固形成分を顕微鏡で観察すると、赤血球や白血球、細胞、細菌などが見えます。

顕微鏡の一視野の中にあるこれらの数をそれぞれに数えて、正常時より増加していないか、あるいは正常時ならみられないものが見えていないかを調べます。



赤血球



真菌



結晶

その他の詳しい検査

尿細胞診検査



尿の中に悪い細胞が出ていないか調べます。尿を提出していただくだけで大丈夫です。

超音波検査



腎臓や膀胱に結石や腫瘍はないか？など体の外から見ても分からない部分を見る検査です。痛みを伴わない検査です。

採尿の時、中間尿を採るのはなぜ??

初めの尿を捨てて、中間尿をとることで尿道付近に付着している細菌や上皮細胞を洗い流すことができ、より正確な検査を行うことができます。採尿の際は最初の尿はとらずに流しその後の尿だけをコップにとるようにしてください。ただし、尿がどうしても出にくい場合などは量が少ないために検査ができないこともありますのですべてをとるようにしてください。



尿検査について詳しく知りたい方は医師にご相談ください。